

入選

親切の連鎖

埼玉県 白幡中学校 2年 高根沢 莉子

私が5才から通院する眼科は、先生がとてもやさしいことから人気があり、いつ受診してもとても混んでいます。

前回受診したときは、いつも以上に混雑して、病院の外にまで患者さんがあふれ出ていました。椅子は全部で30近くありますが、子どものつきそいで来た保護者やその兄弟などで、患者さん以外の人も多く座っていました。私が受付をすませたときから30分くらいたっても座ることはできませんでした。途中、手押し車を押したおばあさんが受付をすませ、私と母の横に立っていました。私は、おばあさんのことが気になってしかたがありませんでした。

席があくと、勢いよく子どもたちがすわってしまい、いつまでたってもおばあさんが座れなかったからです。そこで、私と母で作戦を立てました。席があいたら私とその席を確保し、母があとからおばあさんを誘導するという考えでした。

しばらくすると、席が一つだけあいたので、私はその席に向かいました。母がおばあさんと話をしている、おばあさんは母に、

「娘さんもずっと立っていて疲れていらっしゃるのだから、いいですよ。」と遠慮している様子でした。

実際、すでに40分くらいたっていたので、私も母も疲れていましたが、それ以上に、おばあさんが腰をさすりながら立っている姿は、どうにかしてあげなければという気持ちを強くさせていました。母とおばあさんで私の席に来て、おばあさんは、

「ありがとうね、助かります。」

と言い、フーッと腰をおろしました。

それから、すぐ私は名前を呼ばれ、検眼室に入ってしまったので、その後のことはわかりませんが、10分ほどして出てきたときには、おばあさんの席に母が座っていました。母が先に診察が終わり、出てきたときにおばあさんが検診室に入る際に母に席をゆずってくれたそうです。母と私は、

「おばあさんが出てきたら、また、席をゆずろうね。」

と話していたとき、検眼師さんといっしょにおばあさんが出てきました。

「あそこ、あいているから座りましょう。」

と検眼師さんがおばあさんを案内していました。私はうれしくなりました。小さいときから通院している眼科なので、先生も看護師さんも検眼師さんもみんな顔見知りです。混雑していて見すごしてしまっていた腰の悪いおばあさんのことが、私と母の小さな作戦で気づいてもらえたような気がしました。帰り道、母が、

「どんな病院でも、自分より体調が悪そうだったり、お年寄りだったりしたら、恥ずかしがらずに小さな作戦を執行しよう。」

と笑いながら話しました。